

試験ガイド (DVA-C02)

# AWS Certified Developer - Associate



# AWS Certified Developer - Associate: 試験ガイド (DVA-C02)

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon's trademarks and trade dress may not be used in connection with any product or service that is not Amazon's, in any manner that is likely to cause confusion among customers, or in any manner that disparages or discredits Amazon. All other trademarks not owned by Amazon are the property of their respective owners, who may or may not be affiliated with, connected to, or sponsored by Amazon.

# Table of Contents

AWS Certified Developer - Associate (DVA-C02)	1
はじめに	1
受験対象者について	2
推奨される IT 全般の知識	2
推奨される AWS の知識	2
受験対象者にとって試験対象外となるジョブタスク	2
試験内容	3
解答タイプ	3
採点対象外の設問	3
試験の結果	3
試験内容の概要	4
サービスリファレンス	4
コンテンツ分野 1: AWS のサービスによる開発	5
タスク 1: AWS でホストされているアプリケーション用のコードの開発	5
タスク 2: AWS Lambda 用コードの開発	5
タスク 3: アプリケーション開発でのデータストアの使用	6
コンテンツ分野 2: セキュリティ	6
タスク 1: アプリケーションと AWS のサービスの認証および/または認可の実装	7
タスク 2: AWS のサービスを使用した暗号化の実装	7
タスク 3: アプリケーションコードでの機密データの管理	7
コンテンツ分野 3: デプロイ	8
タスク 1: AWS にデプロイするアプリケーションアーティファクトの準備	8
タスク 2: 開発環境でのアプリケーションのテスト	8
タスク 3: デプロイテストの自動化	9
タスク 4: AWS の継続的インテグレーションおよび継続的デリバリー (CI/CD) サービスを使用したコードのデプロイ	9
コンテンツ分野 4: トラブルシューティングと最適化	10
タスク 1: 根本原因分析の支援	10
タスク 2: オブザーバビリティのためのコードの考案	10
タスク 3: AWS のサービスと機能を使用したアプリケーションの最適化	11
テクノロジーと概念	11
試験での AWS サービスへの言及	12
対象の AWS サービス	12
分析	13

アプリケーション統合 .....	13
コンピューティング .....	13
コンテナ .....	13
データベース .....	13
デベロッパーツール .....	14
マネジメントとガバナンス .....	14
ネットワークとコンテンツ配信 .....	14
セキュリティ、アイデンティティ、コンプライアンス .....	14
ストレージ .....	15
対象外の AWS サービス .....	15
分析 .....	16
ビジネスアプリケーション .....	16
コンピューティング .....	16
データベース .....	16
エンドユーザーコンピューティング .....	16
IoT (モノのインターネット) .....	16
機械学習 .....	17
マネジメントとガバナンス .....	17
メディアサービス .....	17
移行と転送 .....	17
ネットワークとコンテンツ配信 .....	18
ロボティクス .....	18
人工衛星 .....	18
ストレージ .....	18
改訂 .....	18
バージョン 2.1 での変更点 .....	19
知識とスキルの変更点 .....	19
追加された新しいスキル .....	19
削除されたスキル .....	20
対象および対象外のサービスの変更点 .....	20
アンケート .....	21

# AWS Certified Developer - Associate (DVA-C02)

AWS Certified Developer - Associate (DVA-C02) 試験は、デベロッパーの役割を担う方を対象としています。本試験では、受験者の AWS クラウドベースのアプリケーションの開発、テスト、デプロイ、デバッグの習熟度を検証します。

注意: AWS 試験ガイドは、各認定試験において認定対象となる職務に関連する最新の AWS のサービスおよび機能を確認し、スキルをテストするために、定期的に見直され、改訂されています。試験ガイドの改訂版は、変更内容が試験に反映される少なくとも 1 か月前に公開されます。変更の概要については、「改訂」セクションをご確認ください。

## トピック

- [はじめに](#)
- [受験対象者について](#)
- [試験内容](#)
- [試験内容の概要](#)
- [サービスリファレンス](#)
- [コンテンツ分野 1: AWS のサービスによる開発](#)
- [コンテンツ分野 2: セキュリティ](#)
- [コンテンツ分野 3: デプロイ](#)
- [コンテンツ分野 4: トラブルシューティングと最適化](#)
- [テクノロジーと概念](#)
- [試験での AWS サービスへの言及](#)
- [対象の AWS サービス](#)
- [対象外の AWS サービス](#)
- [改訂](#)
- [アンケート](#)

## はじめに

[AWS Certified Developer - Associate \(DVA-C02\)](#) 試験は、デベロッパーの役割を担う方を対象としています。本試験では、受験者の AWS クラウドベースのアプリケーションの開発、テスト、デプロイ、デバッグの習熟度を検証します。

また、次のタスクについての受験者の能力も検証します。

- AWS でのアプリケーションの開発および最適化
- 継続的インテグレーションと継続的デリバリー (CI/CD) ワークフローを使用したパッケージ化およびデプロイ
- アプリケーションコードとデータの保護
- アプリケーションの問題の特定と解決

## 受験対象者について

受験対象者には、AWS のサービスを使用したアプリケーションの開発と保守における 1 年以上の実務経験が必要です。

### 推奨される IT 全般の知識

受験対象者は、以下のような IT 全般の知識を有している必要があります。

- 最低 1 種類の高水準プログラミング言語の習熟
- アプリケーションライフサイクル管理に関する理解
- コード記述のためのクラウド集中型アプリケーションの基礎的な理解
- 実用的なアプリケーションの開発能力
- 開発ツールの使用経験

### 推奨される AWS の知識

受験対象者は、次のタスクを完了できる必要があります。

- AWS サービス API、AWS コマンドラインインターフェイス (AWS CLI)、SDK を使用したアプリケーションの開発および保護
- CI/CD パイプラインを使用した AWS でのアプリケーションのデプロイ

### 受験対象者にとって試験対象外となるジョブタスク

受験対象者が実施できることが想定されていないジョブタスクは、以下のリストのとおりです。このリストはすべてを網羅しているわけではありません。以下のタスクは、本試験の範囲外です。

- アーキテクチャの設計 (分散システム、マイクロサービス、データベーススキーマ、モデリングなど)
- CI/CD パイプラインの設計と作成
- IAM のユーザーとグループの管理
- サーバーとオペレーティングシステムの管理
- AWS のネットワークインフラストラクチャの設計 [Amazon Virtual Private Cloud (Amazon VPC)、AWS Direct Connect など]

## 試験内容

### 解答タイプ

試験には次の 2 種類の設問があります。

- 択一選択問題: 正しい選択肢が 1 つ、誤った選択肢 (不正解) が 3 つ提示される。
- 複数選択問題: 5 つ以上の選択肢のうち、正解が 2 つ以上ある。

設問の記述に最もよく当てはまるもの、または正解となるものを 1 つ以上選択します。不正解の選択肢は、知識や技術が不十分な受験者が選択してしまいそうな、設問内容と一致するもってもらしい解答になっています。

未解答の設問は不正解とみなされます。推測による解答にペナルティはありません。試験には、スコアに影響する設問が 50 問含まれています。

### 採点対象外の設問

試験には、スコアに影響しない採点対象外の設問が 15 問含まれています。AWS では、これら採点対象外の設問における成績情報を収集し、これらの設問を今後採点対象の設問として使用できるかどうかを評価します。試験では、どの設問が採点対象外かは受験者にわからないようになっています。

### 試験の結果

AWS Certified Developer - Associate (DVA-C02) 試験は、合否判定方式です。試験の採点は、認定業界のベストプラクティスおよびガイドラインに基づいた、AWS の専門家によって定められる最低基準に照らして行われます。

試験の結果は、100～1,000 の換算スコアとして報告されます。合格スコアは 720 です。このスコアにより、試験全体の成績と合否がわかります。複数の試験間で難易度がわずかに異なる可能性があるため、スコアを均等化するために換算スコアが使用されます。

スコアレポートには、各セクションの成績を示す分類表が含まれる場合があります。試験には補整スコアリングモデルが使用されるため、セクションごとに合否ラインは設定されておらず、試験全体のスコアで合否が判定されます。

試験の各セクションには特定の重みが設定されているため、各セクションに割り当てられる設問数が異なる場合があります。分類表には、受験者の得意分野と不得意分野を示す全般的な情報が含まれます。セクションごとのフィードバックを解釈する際は注意してください。

## 試験内容の概要

この試験ガイドには、試験に設定された重み、コンテンツ分野、タスクについての説明が含まれています。本ガイドは、試験内容の包括的なリストを提供するものではありません。ただし、各タスクの追加情報を使って、試験の準備に役立てることができます。

本試験のコンテンツ分野と重み設定は、以下のとおりです。

- [コンテンツ分野 1: AWS のサービスによる開発 \(採点対象コンテンツの 32%\)](#)
- [コンテンツ分野 2: セキュリティ \(採点対象コンテンツの 26%\)](#)
- [コンテンツ分野 3: デプロイ \(採点対象コンテンツの 24%\)](#)
- [コンテンツ分野 4: トラブルシューティングと最適化 \(採点対象コンテンツの 18%\)](#)

## サービスリファレンス

以下のセクションでは、本認定試験に関連する AWS のサービス、テクノロジー、概念について詳しく説明します。

- [試験での AWS サービスへの言及](#)
- [対象の AWS サービス](#)
- [対象外の AWS サービス](#)
- [テクノロジーと概念](#)

# コンテンツ分野 1: AWS のサービスによる開発

## タスク

- [タスク 1: AWS でホストされているアプリケーション用のコードの開発](#)
- [タスク 2: AWS Lambda 用コードの開発](#)
- [タスク 3: アプリケーション開発でのデータストアの使用](#)

## タスク 1: AWS でホストされているアプリケーション用のコードの開発

- スキル 1.1.1: アーキテクチャパターン (イベント駆動型、マイクロサービス、モノリシック、コレオグラフィー、オーケストレーション、ファンアウトなど) について説明する。
- スキル 1.1.2: ステートフルとステートレスの概念の違いを説明する。
- スキル 1.1.3: 密結合されたコンポーネントと疎結合されたコンポーネントの違いを説明する。
- スキル 1.1.4: 同期パターンと非同期パターンの違いを説明する。
- スキル 1.1.5: プログラミング言語 (Java、C#、Python、JavaScript、TypeScript、Go など) で耐障害性のあるレジリエントなアプリケーションを作成する。
- スキル 1.1.6: API を作成、拡張、保守する (レスポンス/リクエストの変換、検証ルールの適用、ステータスコードのオーバーライドなど)。
- スキル 1.1.7: 開発環境でユニットテストを作成および実行する (AWS SAM の使用など)。
- スキル 1.1.8: メッセージングサービスを使用するためのコードを記述する。
- スキル 1.1.9: API と AWS SDK を使用して AWS サービスとやり取りするコードを記述する。
- スキル 1.1.10: AWS のサービスを使用してストリーミングデータを処理する。
- スキル 1.1.11: Amazon Q Developer を使用して開発を支援する。
- スキル 1.1.12: Amazon EventBridge を使用してイベント駆動型パターンを実装する。
- スキル 1.1.13: サードパーティーサービスの統合のためにレジリエントなアプリケーションコードを実装する (再試行ロジック、サーキットブレーカー、エラー処理パターンなど)。

## タスク 2: AWS Lambda 用コードの開発

- スキル 1.2.1: Lambda コードからの VPC でのプライベートリソースのアクセスについて説明する。

- スキル 1.2.2: 環境変数とパラメータ (メモリ、同時実行、タイムアウト、ランタイム、ハンドラー、レイヤー、拡張機能、トリガー、送信先など) を定義することで Lambda 関数を設定する。
- スキル 1.2.3: コード (Lambda 送信先、デッドレターキューなど) を使用したイベントライフサイクルとエラーを処理する。
- スキル 1.2.4: AWS のサービスとツールを使用してテストコードを作成および実行する。
- スキル 1.2.5: Lambda 関数と AWS のサービスを統合する。
- スキル 1.2.6: 最適なパフォーマンスのために Lambda 関数をチューニングする。
- スキル 1.2.7: Lambda 関数を使用してほぼリアルタイムでデータを処理および変換する。

## タスク 3: アプリケーション開発でのデータストアの使用

- スキル 1.3.1: バランスの取れたパーティションアクセスのための高カーディナリティパーティションキーについて説明する。
- スキル 1.3.2: データベース整合性モデル (強整合性、結果整合性など) について説明する。
- スキル 1.3.3: クエリオペレーションとスキャンオペレーションの違いを説明する。
- スキル 1.3.4: Amazon DynamoDB キーとインデックス作成を定義する。
- スキル 1.3.5: データをシリアル化および逆シリアル化してデータストアに永続性を提供する。
- スキル 1.3.6: データストアを使用、管理、保守する。
- スキル 1.3.7: データライフサイクルを管理する。
- スキル 1.3.8: データキャッシュサービスを使用する。
- スキル 1.3.9: アクセスパターンに基づいて専用のデータストアを使用する (Amazon OpenSearch Service など)。

## コンテンツ分野 2: セキュリティ

### タスク

- [タスク 1: アプリケーションと AWS のサービスの認証および/または認可の実装](#)
- [タスク 2: AWS のサービスを使用した暗号化の実装](#)
- [タスク 3: アプリケーションコードでの機密データの管理](#)

## タスク 1: アプリケーションと AWS のサービスの認証および/または認可の実装

- スキル 2.1.1: ID プロバイダーを使用してフェデレーテッドアクセスを実装する (Amazon Cognito、IAM など)。
- スキル 2.1.2: ベアラートークンを使用してアプリケーションをセキュリティ保護する。
- スキル 2.1.3: AWS へのプログラムによるアクセスを設定する。
- スキル 2.1.4: AWS のサービスに対して認証された呼び出しを行う。
- スキル 2.1.5: IAM ロールを引き受ける。
- スキル 2.1.6: IAM プリンシパルのアクセス許可を定義する。
- スキル 2.1.7: きめ細かいアクセスコントロールのためのアプリケーションレベルの認可を実装する。
- スキル 2.1.8: マイクロサービスアーキテクチャにおいてクロスサービス認証を処理する。

## タスク 2: AWS のサービスを使用した暗号化の実装

- スキル 2.2.1: 保管中と転送中の暗号化を定義する。
- スキル 2.2.2: 証明書管理について説明する (AWS Private CA など)。
- スキル 2.2.3: クライアント側の暗号化とサーバー側の暗号化の違いを説明する。
- スキル 2.2.4: 暗号化キーを使用してデータを暗号化/復号する。
- スキル 2.2.5: 開発目的で証明書と SSH キーを生成する。
- スキル 2.2.6: アカウントの境界を越えて暗号化を使用する。
- スキル 2.2.7: キーローテーションを有効/無効にする。

## タスク 3: アプリケーションコードでの機密データの管理

- スキル 2.3.1: データ分類について説明する [個人を特定できる情報 (PII)、保護対象医療情報 (PHI) など]。
- スキル 2.3.2: 機密データを含む環境変数を暗号化する。
- スキル 2.3.3: シークレット管理サービスを使用して機密データを保護する。
- スキル 2.3.4: 機密データをサニタイズする。
- スキル 2.3.5: アプリケーションレベルのデータマスキングとサニタイズを実装する。

- スキル 2.3.6: マルチテナントアプリケーションのデータアクセスパターンを実装する。

## コンテンツ分野 3: デプロイ

### タスク

- [タスク 1: AWS にデプロイするアプリケーションアーティファクトの準備](#)
- [タスク 2: 開発環境でのアプリケーションのテスト](#)
- [タスク 3: デプロイテストの自動化](#)
- [タスク 4: AWS の継続的インテグレーションおよび継続的デリバリー \(CI/CD\) サービスを使用したコードのデプロイ](#)

### タスク 1: AWS にデプロイするアプリケーションアーティファクトの準備

- スキル 3.1.1: パッケージ内でのコードモジュール (環境変数、設定ファイル、コンテナイメージなど) の依存関係を管理する。
- スキル 3.1.2: アプリケーションデプロイのためのファイルとディレクトリ構造を整理する。
- スキル 3.1.3: デプロイ環境でコードリポジトリを使用する。
- スキル 3.1.4: リソース (メモリ、コアなど) に対してアプリケーション要件を適用する。
- スキル 3.1.5: 特定の環境向けにアプリケーション構成を準備する (AWS AppConfig の使用など)。

### タスク 2: 開発環境でのアプリケーションのテスト

- スキル 3.2.1: AWS のサービスとツールを使用して、デプロイされたコードをテストする。
- スキル 3.2.2: 外部依存関係用の統合テストとモック API を記述する。
- スキル 3.2.3: 開発エンドポイントを使用してアプリケーションをテストする (Amazon API Gateway でのステージの設定など)。
- スキル 3.2.4: 既存の環境にアプリケーションスタックの更新をデプロイする (AWS SAM テンプレートを別のステージング環境にデプロイするなど)。
- スキル 3.2.5: イベント駆動型アプリケーションをテストする。

## タスク 3: デプロイテストの自動化

- スキル 3.3.1: アプリケーションテストイベントを作成する (AWS Lambda、API Gateway、AWS SAM リソースをテストするための JSON ペイロードなど)。
- スキル 3.3.2: さまざまな環境に API リソースをデプロイする。
- スキル 3.3.3: 統合テスト用に承認済みのバージョンを使用するアプリケーション環境を作成する (Lambda エイリアス、コンテナイメージタグ、AWS Amplify ブランチ、AWS Copilot 環境など)。
- スキル 3.3.4: Infrastructure as Code (IaC) テンプレートを実装およびデプロイする (AWS SAM テンプレート、AWS CloudFormation テンプレートなど)。
- スキル 3.3.5: 個々の AWS のサービスの環境を管理する (API Gateway での開発、テスト、本番環境の区別など)。
- スキル 3.3.6: Amazon Q Developer を使用して自動テストを生成する。

## タスク 4: AWS の継続的インテグレーションおよび継続的デリバリー (CI/CD) サービスを使用したコードのデプロイ

- スキル 3.4.1: Lambda デプロイのパッケージングオプションを説明する。
- スキル 3.4.2: API Gateway ステージとカスタムドメインを説明する。
- スキル 3.4.3: 既存の IaC テンプレート (AWS SAM テンプレート、CloudFormation テンプレートなど) を更新する。
- スキル 3.4.4: AWS のサービスを使用してアプリケーション環境を管理する。
- スキル 3.4.5: デプロイ戦略を使用してアプリケーションバージョンをデプロイする。
- スキル 3.4.6: コードをリポジトリにコミットして、構築、テスト、デプロイアクションを呼び出す。
- スキル 3.4.7: オーケストレーションされたワークフローを使用してさまざまな環境にコードをデプロイする。
- スキル 3.4.8: 既存のデプロイ戦略を使用してアプリケーションロールバックを実行する。
- スキル 3.4.9: バージョンとリリースの管理にラベルとブランチを使用する。
- スキル 3.4.10: 既存のランタイム設定を使用して動的デプロイを作成する (Lambda 関数で API Gateway のステージング変数を使用するなど)。
- スキル 3.4.11: アプリケーションリリースのデプロイメント戦略 (ブルー/グリーン、カナリア、ローリングなど) を構成する。

## コンテンツ分野 4: トラブルシューティングと最適化

### タスク

- [タスク 1: 根本原因分析の支援](#)
- [タスク 2: オブザーバビリティのためのコードの考案](#)
- [タスク 3: AWS のサービスと機能を使用したアプリケーションの最適化](#)

### タスク 1: 根本原因分析の支援

- スキル 4.1.1: コードをデバッグして欠陥を特定する。
- スキル 4.1.2: アプリケーションメトリクス、ログ、トレースを解釈する。
- スキル 4.1.3: ログをクエリして関連データを見つける。
- スキル 4.1.4: カスタムメトリクスを実装する [Amazon CloudWatch 埋め込みメトリクスフォーマット (EMF) など]。
- スキル 4.1.5: ダッシュボードとインサイトを使用してアプリケーションヘルスを確認する。
- スキル 4.1.6: サービス出力ログを使用してデプロイ失敗をトラブルシューティングする。
- スキル 4.1.7: アプリケーションにおけるサービス統合の問題をデバッグする。

### タスク 2: オブザーバビリティのためのコードの考案

- スキル 4.2.1: ログ記録、モニタリング、オブザーバビリティの違いを説明する。
- スキル 4.2.2: アプリケーションの動作と状態を記録する効果的なログ記録戦略を実装する。
- スキル 4.2.3: カスタムメトリクスを出力するコードを実装する。
- スキル 4.2.4: トレースサービスへの注釈を追加する。
- スキル 4.2.5: 特定のアクション (クォータ制限またはデプロイの完了に関する通知など) に関する通知アラートを実装する。
- スキル 4.2.6: AWS のサービスとツールを使用してトレースを実装する。
- スキル 4.2.7: アプリケーションイベントとユーザーアクションの構造化ログ記録を実装する。
- スキル 4.2.8: アプリケーションヘルスチェックとレディネスプローブを設定する。

## タスク 3: AWS のサービスと機能を使用したアプリケーションの最適化

- スキル 4.3.1: 同時実行を定義する。
- スキル 4.3.2: アプリケーションのパフォーマンスをプロファイルする。
- スキル 4.3.3: アプリケーションの最小メモリと処理能力を判断する。
- スキル 4.3.4: サブスクリプションフィルターポリシーを使用してメッセージを最適化する。
- スキル 4.3.5: リクエストヘッダーに基づいてコンテンツをキャッシュする。
- スキル 4.3.6: アプリケーションレベルのキャッシュを実装してパフォーマンスを向上させる。
- スキル 4.3.7: アプリケーションリソースの使用を最適化する。
- スキル 4.3.8: アプリケーションのパフォーマンスの問題を分析する。
- スキル 4.3.9: アプリケーションログを使用してパフォーマンスのボトルネックを特定する。

## テクノロジーと概念

以下は、試験に出題される可能性のあるテクノロジーと概念のリストです。このリストはすべてを網羅しているわけではなく、また、変更される場合もあります。このリストにおける項目の掲載順序や配置は、その項目の相対的な重みや試験における重要性を示すものではありません。

- 分析
- アプリケーション統合
- コンピューティング
- コンテナ
- コストと容量管理
- データベース
- デベロッパーツール
- マネジメントとガバナンス
- ネットワークとコンテンツ配信
- セキュリティ、アイデンティティ、コンプライアンス
- ストレージ

## 試験での AWS サービスへの言及

AWS 認定では、略語や括弧付き情報を含む周知の AWS サービス名に正式な短縮名を使用して、この試験を容易に読めるようにしています。例えば Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) は、試験では Amazon SNS と記載されます。

- 試験のヘルプ機能 (すべての問題に用意されています) には、AWS サービスの短縮名と、それに対応する正式名のリストが含まれています。
- 試験に短縮名で表示されるサービスのリストについては、AWS 認定ウェブサイトの [AWS サービス名](#) を参照してください。リストに含まれているサービスのうち、試験対象外のものは試験に記載されていません。

注記: 略語には、試験で正式名が記述されていないものや、ヘルプ機能に含まれていないものもあります。一部の AWS サービスの正式名には、正式名では記載されない略語が含まれています (Amazon API Gateway、Amazon EMR など)。また、試験には、受験者が知っていると思定される略語が含まれる場合もあります。

## 対象の AWS サービス

以下に、AWS Certified Developer - Associate (DVA-C02) 試験の対象となる AWS のサービスと機能のリストを示します。このリストはすべてを網羅しているわけではなく、また、変更される場合があります。AWS のサービスは、サービスの主要機能に沿ったカテゴリに分類されています。

### トピック

- [分析](#)
- [アプリケーション統合](#)
- [コンピューティング](#)
- [コンテナ](#)
- [データベース](#)
- [デベロッパーツール](#)
- [マネジメントとガバナンス](#)
- [ネットワークとコンテンツ配信](#)
- [セキュリティ、アイデンティティ、コンプライアンス](#)
- [ストレージ](#)

## 分析

- Amazon Athena
- Amazon Kinesis
- Amazon OpenSearch Service

## アプリケーション統合

- AWS AppSync
- Amazon EventBridge
- Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS)
- Amazon Simple Queue Service (Amazon SQS)
- AWS Step Functions

## コンピューティング

- Amazon EC2
- AWS Elastic Beanstalk
- AWS Lambda

## コンテナ

- Amazon Elastic Container Registry (Amazon ECR)
- Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS)
- Amazon Elastic Kubernetes Service (Amazon EKS)

## データベース

- Amazon Aurora
- Amazon DynamoDB
- Amazon ElastiCache
- Amazon RDS

## デベロッパーツール

- AWS Amplify
- AWS CloudShell
- AWS CodeArtifact
- AWS CodeBuild
- AWS CodeDeploy
- AWS CodePipeline
- AWS X-Ray
- Amazon Q Developer

## マネジメントとガバナンス

- AWS AppConfig
- AWS Cloud Development Kit (AWS CDK)
- AWS CloudFormation
- AWS CloudTrail
- Amazon CloudWatch
- AWS コマンドラインインターフェイス (AWS CLI)
- AWS Systems Manager

## ネットワークとコンテンツ配信

- Amazon API Gateway
- Amazon CloudFront
- Elastic Load Balancing
- Amazon Route 53
- Amazon VPC

## セキュリティ、アイデンティティ、コンプライアンス

- Amazon Cognito

- AWS Identity and Access Management (IAM)
- AWS Key Management Service (AWS KMS)
- AWS Secrets Manager
- AWS Security Token Service (AWS STS)
- AWS WAF

## ストレージ

- Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS)
- Amazon Elastic File System (Amazon EFS)
- Amazon S3

## 対象外の AWS サービス

以下に、AWS Certified Developer - Associate (DVA-C02) 試験の対象外となる AWS のサービスと機能のリストを示します。このリストはすべてを網羅しているわけではなく、また、変更される場合もあります。

### トピック

- [分析](#)
- [ビジネスアプリケーション](#)
- [コンピューティング](#)
- [データベース](#)
- [エンドユーザーコンピューティング](#)
- [IoT \(モノのインターネット\)](#)
- [機械学習](#)
- [マネジメントとガバナンス](#)
- [メディアサービス](#)
- [移行と転送](#)
- [ネットワークとコンテンツ配信](#)
- [ロボティクス](#)
- [人工衛星](#)

- [ストレージ](#)

## 分析

- Amazon EMR
- AWS Glue
- Amazon Redshift

## ビジネスアプリケーション

- Amazon Connect
- Amazon SES

## コンピューティング

- AWS Batch
- Amazon Lightsail
- AWS Outposts

## データベース

- Amazon DocumentDB
- Amazon Neptune
- Amazon Quantum Ledger Database (Amazon QLDB)

## エンドユーザーコンピューティング

- Amazon AppStream 2.0
- Amazon WorkSpaces

## IoT (モノのインターネット)

- AWS IoT Core

- AWS IoT Greengrass

## 機械学習

- Amazon Comprehend
- Amazon Forecast
- Amazon Lex
- Amazon Polly
- Amazon Rekognition
- Amazon SageMaker
- Amazon Textract
- Amazon Transcribe
- Amazon Translate

## マネジメントとガバナンス

- AWS Config
- AWS Control Tower
- AWS License Manager
- AWS Organizations
- AWS Service Catalog
- AWS Trusted Advisor

## メディアサービス

- Amazon Elastic Transcoder
- Amazon Kinesis Video Streams

## 移行と転送

- AWS Database Migration Service (AWS DMS)

- AWS DataSync
- AWS Migration Hub
- AWS Snow Family
- AWS Transfer Family

## ネットワークとコンテンツ配信

- AWS App Mesh
- AWS Cloud Map
- AWS Direct Connect
- AWS Global Accelerator
- AWS PrivateLink
- AWS Transit Gateway

## ロボティクス

- AWS RoboMaker

## 人工衛星

- AWS Ground Station

## ストレージ

- AWS Backup
- Amazon FSx
- AWS Storage Gateway

## 改訂

AWS 試験ガイドは、各認定試験において認定対象となる職務に関連する最新の AWS のサービスおよび機能を確認し、スキルをテストするために、定期的に見直され、改訂されています。試験ガイドの改訂版は、変更内容が試験に反映される少なくとも 1 か月前に公開されます。

バージョン	公開日
2.1	2024 年 12 月 12 日
2.0	

## バージョン 2.1 での変更点

試験ガイドのバージョン 2.0 で別々に記載されていた知識とスキルは、タスクごとの 1 つのスキルリストにまとめられています。バージョン 2.0 で既存のスキルと重複していた知識項目は、バージョン 2.1 で削除されました。

## 知識とスキルの変更点

バージョン 2.1	バージョン 2.0
スキル 3.2.2: 外部依存関係用の統合テストとモック API を記述する。	対象スキル: API のモック統合の実行と統合の依存関係の解決
スキル 3.4.11: アプリケーションリリースのデプロイメント戦略 (ブルー/グリーン、カナリア、ローリング) を構成する。	対象知識: デプロイ戦略 (カナリア、ブルー/グリーン、ローリングなど)
スキル 4.2.7: アプリケーションイベントとユーザーアクションの構造化ログ記録を実装する。	対象知識: 構造化ログ

## 追加された新しいスキル

- スキル 1.1.11: Amazon Q Developer を使用して開発を支援する。
- スキル 1.1.12: Amazon EventBridge を使用してイベント駆動型パターンを実装する。
- スキル 1.1.13: サードパーティーサービス統合のためにレジリエントなアプリケーションコードを実装する (再試行ロジック、サーキットブレーカー、エラー処理パターンなど)。
- スキル 1.2.7: リアルタイムのデータ処理と変換のための Lambda 関数を実装する。

- スキル 1.3.9: アクセスパターンに基づいて専用のデータストアを使用する (Amazon OpenSearch Service など)。
- スキル 2.1.7: きめ細かいアクセスコントロールのためのアプリケーションレベルの認可を実装する。
- スキル 2.1.8: マイクロサービスアーキテクチャにおいてクロスサービス認証を処理する。
- スキル 2.3.5: アプリケーションレベルのデータマスキングとサニタイズを実装する。
- スキル 2.3.6: マルチテナントアプリケーションのデータアクセスパターンを実装する。
- スキル 3.1.5: さまざまな環境向けにアプリケーション構成を準備する (AWS AppConfig など)。
- スキル 3.2.5: イベント駆動型アプリケーションをテストする。
- スキル 3.3.6: Amazon Q Developer を使用して自動テストを生成する。
- スキル 4.1.7: アプリケーションにおけるサービス統合の問題をデバッグする。
- スキル 4.2.8: アプリケーションヘルスチェックとレディネスプローブを作成する。
- スキル 4.3.6: アプリケーションレベルのキャッシュを実装してパフォーマンスを向上させる。
- スキル 4.3.7: アプリケーションリソースの使用を最適化する。
- スキル 4.3.8: アプリケーションのパフォーマンスの問題を分析する。
- スキル 4.3.9: アプリケーションログを使用してパフォーマンスのボトルネックを特定する。

## 削除されたスキル

バージョン 2 では、既存のスキルで既にカバーされていた知識項目以外に削除された知識やスキルはありません。

## 対象および対象外のサービスの変更点

### 対象リストに追加されたサービス

- Amazon Q Developer

### 対象リストから削除されたサービス

- AWS Copilot
- Amazon CodeGuru

### 対象外リストに追加されたサービス

- 対象外リストに追加されたサービスはありません。

#### 対象外リストから削除されたサービス

- AWS Device Farm
- Amazon Lex
- AWS Service Catalog
- AWS Database Migration Service (AWS DMS)

## アンケート

この試験ガイドはどの程度役に立ちましたか。ご意見をお待ちしています。 [アンケートへの回答にご協力ください](#)。